Economic Indicators

発表日:2023 年 4 月 20 日(木)

貿易統計(2023 年 3 月)

～中国向けで持ち直しの兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
22年	1月	▲ 22,201	▲ 9,273	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,529	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,861	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,442	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,222	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 18,901	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,236	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,864	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,365	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 22,956	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 18,284	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,098	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 18,043	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 8,981	▲ 12,530	6.5	8.3	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.7	▲ 6.3	0.1	▲ 8.5
	3月	▲ 7,545	▲ 12,099	4.3	7.3	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支（季節調整値）は赤字幅縮小

財務省より発表された 23 年 3 月の貿易統計では、輸出金額が前年比＋4.3%（事前予想：＋2.4%）、輸入金額が同＋7.3%（事前予想：＋11.6%）、貿易収支は▲7,545 億円の赤字（事前予想：▲12,948 億円の赤字）となった。資源高と円安の一服で輸入物価が鈍化していることに加え、ワクチン等医薬品の輸入増が剥落したことで輸入は事前予想を下回り、前年比で縮小が続いた（2 月＋8.3%→3 月＋7.3%）。他方、輸出についても米欧を中心とした海外経済の減速により低迷が続いており、前年比の伸びが縮小した（2 月＋6.5%→3 月＋4.3%）。季節調整値でみても、輸出が前月比▲0.8%、輸入が同▲1.2%とそれぞれ減少したことで、貿易収支は▲12,099 億円の赤字となり、前月からほぼ横ばいとなった。

同時に公表された 22 年度の貿易収支は▲21 兆 7285 億円の赤字となり、前年度の▲5 兆 5,866 億円から大幅な赤字拡大となった。22 年度は資源価格の上昇に加えて円安進行により、輸入物価が前年度比＋32.2%と高い伸びとなった。その一方で、輸出については 22 年度中はゼロコロナ政策に苦しんだ中国向けの低迷や、年度後半には金融引き締めによる影響で米国向け、欧州向けが減速したことで伸び悩んだ（前年度比＋15.5%）。輸入が輸出を大きく上回ったことで、22 年度の貿易収支は大幅な赤字となった。

○中国向けで持ち直しの兆し

物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は前月比＋0.4%となった（実質化と季節調整は第

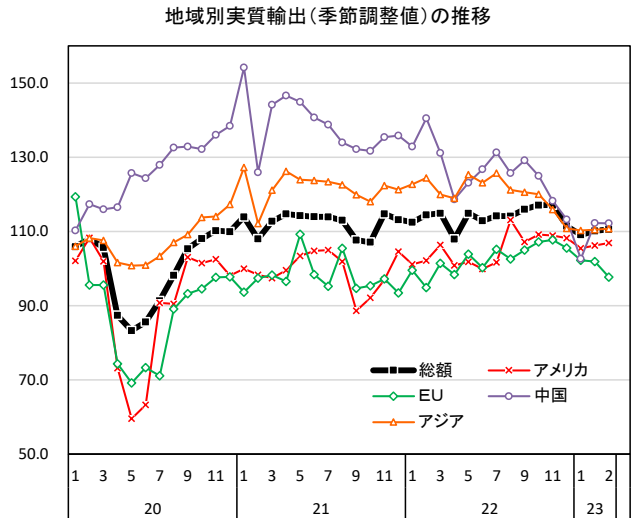
一生命経済研究所）。地域別にみると、米国向けが同＋0.6%（2 月：＋0.7%）、欧州向けが同▲4.1%（2 月：▲0.4%）、アジア向けが同＋0.2%（2 月：＋0.2%）、うち中国向けが同▲0.1%（2 月：＋9.3%）となった。

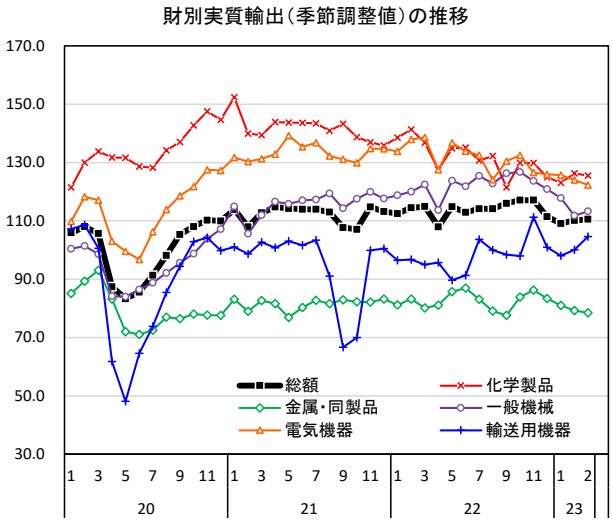
中国向けは、3 月は小幅のマイナスとなったものの、2 月が中華圏による春節の影響で押し上げられていた可能性があることを考えると、弱いわけではない。3 月単月を 1-2 月平均対比でみると＋4.4%となっており、足元では持ち直しの兆しもうかがえる。3 月分の内訳としては、一般機械が前月比＋7.0%と 2 か月連続で増加したほか、電気機械、輸送用機械も 1-2 月平均を上回った。22 年の実質輸出は中国向けの低迷が続いていたことが最大の下押し要因だったため、中国向け輸出の持ち直しの兆しは好材料といえるだろう。

もっとも、金融引き締め政策の影響で景気減速がみられる米国向け、欧州向けについては低調が続く。米国向けは 2 か月連続の増加となったが、自動車輸出を中心とした輸送用機器の回復が米国向けを支えている格好だ。輸送用機器（対世界）は、22 年夏ごろから停滞状況が続いていたが、今年 2 月に前月比＋2.1%、3 月も同＋4.5%と 2 か月連続の増加となっており、足元で持ち直しの動きがみられる。一方で、米国向け、欧州向けともに、製造業の景気悪化や IT 関連需要の一巡で一般機械や電気機械は減少傾向が続いており、基調としては弱まりがみられる。

なお、23 年 1-3 月期の実質輸出は前期比▲4.6%の減少となった。地域別にみると、米国向けが同▲2.4%、欧州向けが同▲5.8%、アジア向けが同▲4.4%、うち中国向けが同▲8.2%となった。

先行きに関しては、ゼロコロナ政策からの転換と感染動向の落ち着きで景気が上向き始めている中国向けは持ち直しが期待できるだろう。その一方で、金融引き締めの影響でこの先も経済減速が見込まれる米国向け、欧州向けが落ち込むことで、輸出全体も低迷した状態が続く可能性が高い。資源高、円安の一服によって輸入物価の上昇に歯止めがかかる一方で、輸出も低迷が続くことから、貿易収支（季節調整値）は今後も高水準の赤字が続くと予想する。





（出所）財務省　※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。